



真言宗智山派総本山智積院展示収蔵庫

宝物館だより

vol.2

真言宗智山派総本山智積院宝物館
千六〇五―〇九五― 京都市東山区東瓦町九六四
令和六年（二〇二四）四月一日発行
編集 智積院教化部展示収蔵課

令和六年度企画展を 開催します

令和六年五月一日（水）より令和六年度の企画展を開催します。展示テーマは「修復」です。

破損や虫食い、絵具の剥離などの傷みがみられる資料は、それ以上の劣化を防ぎ、傷みを改善する必要があります。経年による劣化は避けられませんが、それを少しでも緩やかにし、後世へと残していくため、資料の修復は欠かせないものです。

智積院の資料の中には、過去に行われた修復の記録が残るものがあります。今回の展示では、修復の記録がある資料を中心に展示し、智積院で行われた修復の歴史を概観します。



令和六年度企画展 総本山智積院 修復の歴史



長谷川等伯一門
国宝障壁画
常時公開

長谷川等伯 松に秋草図
二曲一双 桃山時代（部分）

星曼荼羅 一幅 江戸時代（部分）

令和六年度企画展

総本山智積院 ——修復の歴史

智積院では江戸時代・明治時代に数度、大規模な資料の修復が行われました。これにより、智積院の資料は今に至るまで残されてきました。

大切に受け継がれてきた資料を後世へと継いでいくため、現在でも劣化や破損がみられる資料は随時、専門の修理所へ修復に出しています。

また、宝物館で常時公開している障壁画に關しても、同様に修復が施されてきました。それにより、現在でも絢爛豪華な姿を残しています。

宝物館内の大書院上段の間、再現部分でご覧いただける『松に立葵図』(国宝、長谷川等伯一門筆、桃山時代、六面)は令和三年から五年にかけて修復が行われ、昨年、修復後の姿を初めて本館で公開するに至りました。

この修復に伴い調査が行われ、過去の補修や切り継ぎの状況が明らかになりました。令和六年度企画展では、この調査結果も展示グラフィックを使用してご紹介します。

※会期中、作品保護のため展示替えを行います。展示期間は四ページの展示目録をご確認ください。

展示品紹介

千手観音像

こちらは、十一面四十二臂の姿で描かれた千手観音像です。観音菩薩が一切衆生を救うために得た姿で、千手は衆生に差し伸べる慈悲と救済の意を示しています。

千手、といっても、本当に千の手を描くわけではありません。実際には四十二臂——四十二本の手を描いていますが、胸元で合掌している二本の手を除いた四十の手で、二十五の世界(二十五有)を救うことを表現しています。

この四十二の掌には、それぞれ一眼がつき、持物を手にするか、もしくは印を結んでいます。左手には宝戟や扨子など、右手には錫杖や化仏、胡瓶などを持ち、それぞれが細やかに描かれています。

また、千手観音や脇侍の地藏尊(左側)・毘沙門天(右側)が身にまとう法衣の文様は金泥を用い、細線で表現しています。いずれも繊細な表現で、随所に見どころのある一幅です。

こちらは、智積院第二十二世動潮僧正によって修復されたものです。過去の修復により今も美しく残る姿を、ぜひ展示室でじっくりとご覧ください。



千手観音像 絹本著色 江戸時代 縦 107.1cm × 横 51.8cm

お堂紹介 密厳堂

今回ご紹介する密厳堂は、真言宗中興の祖、そして新義派一門の始祖である興教大師覺鑿をお祀りしています。

興教大師は嘉保二年（一〇九五）、肥前国（佐賀県）に生まれました。高野山で小伝法院や大伝法院、住坊の密厳院を創建したほか、



密厳堂 京都府指定有形文化財

伝法大会を始修し、僧侶育成に尽力されました。保延七年（一一四一）に大伝法院僧侶とともに根来山へ移られ、その二年後の康治二年（一一四三）十二月十二日に、円明寺にて入寂されました。

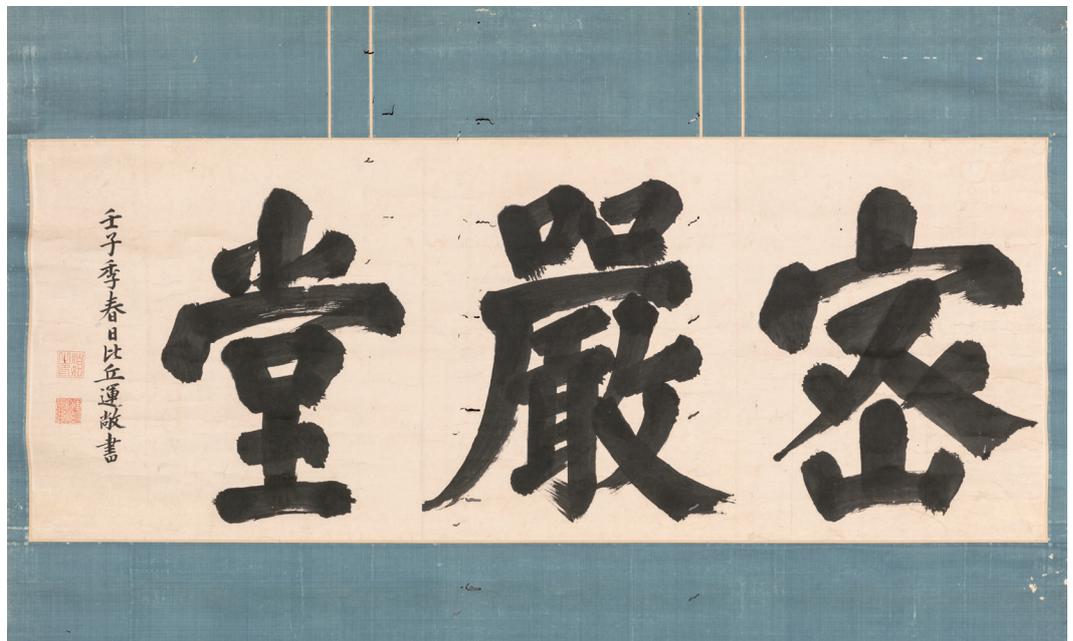
現在は洛東に位置する智積院ですが、もとは興教大師が開かれた紀州根来寺（和歌山県）の中に存在していました。根来寺が豊臣秀吉の焼き討ちに遭ったのち、当時、智積院の住職であった玄宥僧正が、今の地に智積院を再興しました。

それ以降、数度にわたって境内地の拡充整備が行われています。智積院第七世運徹僧正の在山期間には、とりわけ大規模な整備が施されました。

寛文五年（一六六五）、運徹僧正は密厳堂以南の土地を下賜されました。翌年、そこへ新たな寮舎とともに、密厳堂や三神社（春日・三部・九社）本殿・拝殿、鐘楼などが新築・移転されました。

密厳堂の入口には「密厳堂」と刻まれた扁額が掲げられています。右下に載せている写真が、その扁額の原書です。

画面の左側に「壬子季春日比丘運徹書」とあり、寛文十二年（一六七二）に運徹僧正が書したものであることがわかります。また紙背の墨書により、動潮僧正の代に修復が施されていることが明らかになっています。



額字 紙本墨書 江戸時代（寛文12年） 縦 57.4cm × 横 144.4cm

令和六年度の企画展では、この原書も展示します。一部期間を除き、密厳堂もご参拝いただけますので、扁額とともに参りください。



令和6年度企画展

総本山智積院——修復の歴史

場所：特別展示室



展示目録

アルファベット A～D は下記の館内図のアルファベットと対応

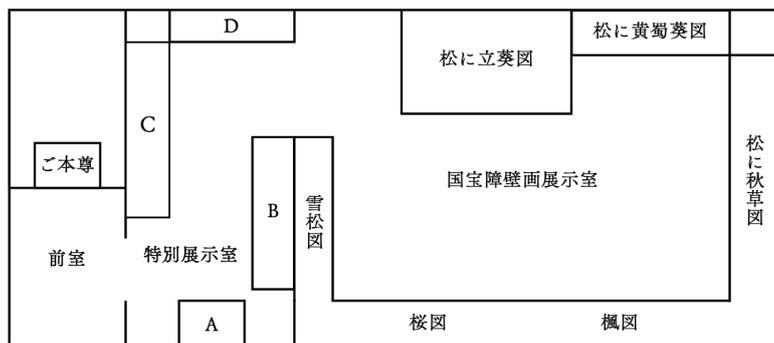
出陳期間

	名称	時代	員数	R6.5/1～7/30	8/1～10/30	11/1～R7.1/30	R7.2/1～4/29
A	松に立葵図 旧下地・四分一		一式				
B	松に立葵図 旧修理銘		一式				
B	智積院靈寶并袈裟世具目録 上	江戸時代	1冊				
B	智積院法具世具目録 下	江戸時代	1冊				
B	遊智積記	江戸時代	1巻				
B	十如是	江戸時代	1巻				
C	太元大曼荼羅	江戸時代	1幅				
C	千手観音像	江戸時代	1幅				
C	普賢延命像	江戸時代	1幅				
C	星曼荼羅	江戸時代	1幅				
C	第十世専戒僧正像	江戸時代	1幅				
C	出山釈迦図	江戸時代	1幅				
D	額字（「密厳堂」）	江戸時代	1幅				
D	不動明王図	室町時代	1幅				
D	地藏尊像	南北朝時代	1幅				
D	家綱公書	江戸時代	1幅				

休館日 令和6年7月31日(水)、10月31日(木)、12月29日(日)～31日(火)
令和7年1月31日(金)、4月30日(水)

※智積院の行事により臨時休館する場合がございます。

展示品・休館日などの詳細は智積院宝物館ウェブサイトをご参照ください。



宝物館館内図

開館時間 午前9時～午後4時半
(最終受付は午後4時)

宝物館拝観料 一般 500円
中高生 300円
小学生 200円
(小学生未満無料)

※団体割引(20名以上、1名につき50円引)

※障がい者手帳提示で本人無料(付添は有料)

※名勝庭園は別途拝観料が必要です

お問い合わせ 総本山智積院宝物館

TEL 075-532-5655

FAX 075-532-5656

智積院宝物館 web サイト

<https://chisan.or.jp/worship/artifact/>

